

団塊のカタログ

第2号

平成8年8月

自分史とも戦後史ともつかず、中途ハンパに勝手に書きなぐっております「^{ワシラ}団塊のカタログ」・・・これもまた勝手にお送りして早や第2号となりました。

本誌あい♡まつどは北小金・新松戸周辺に15,000部ほど、朝日・毎日・読売・産経・東京・千葉日報各紙に月に一度程折り込んでおりまして、それとは別に1,000

部ほど郵送しているのですが、このどさくさにまぎれて別冊付録としてこの「^{ワシラ}団塊のカタログ」を皆様のお手元にお届けしようとタクらんでおります。

10年後には「今の松戸市長が市議会議員一年生の時のだけ!」と自慢でき、さらに1号からそろえて「なんでも鑑定団」に出せば良い値がつく・・・ワケがありません!!

第2章

(片山～芦田～吉田内閣)

0才の頃

昭和23年

この年の十大ニュース

- | | |
|----------|--------------|
| ①帝銀事件 | ⑥11月政変(吉田内閣) |
| ②東京裁判判決 | ⑦公務員法改正 |
| ③古橋選手大活躍 | ⑧礼文島の金環食 |
| ④昭和電工疑獄 | ⑨2月政変(芦田内閣) |
| ⑤福井大地震 | ⑩教育委員初の選挙 |

ワシラが生まれた昭和23年(1948年)当時の主な出来事である。

この年の政治の不安定さを象徴するかのごとく、2月と10月に内閣が変わっており、おなじみの汚職事件も顔を出す。

その一方で敗戦を忘れさせてくれた^{フジヤマ}古橋広^{トビウオ}之進さんの大活躍もあれば、金環食のような自然現象がついでに選ばれるご愛嬌もあったりするが、最も戦後色を感じさせるのはなんといっても**東京裁判**だろう。

(勝者が敗者を裁いて良いのかとのご意見もあるが、なに、立場が逆なら同じこと)

そんな中、堂々の第1位(?)に輝く**帝銀事件**にご登場願おう。

☆

昭和23年1月26日、東京都豊島区の帝国銀行椎名町支店で行員ら十数人が毒殺され、現金など20万円が盗まれる事件が起きた。

犯人と目される^{もく}平沢^{ひらさわ}定通^{さだみち}は逮捕から38年余、死刑判決が確定してからも32年の長きにわたって無実を主張し続けてきたが、その一方で死刑も執行されないまま、昭和62年に95才の高齢で獄死してしまう。

再審請求や恩赦の申し立ての^{たび}度に新聞などで「帝銀事件」とか「平沢」などの活字を目にするので、小学生の頃からテイギンなる事件が存在しているのは知ってはいたが、テイジンとばかり思い込んでいたもので、それというのも**帝国銀行**そのものがすでに存在していなかったからなのだが、新聞の解説などで

「帝国銀行（現在の三井銀行）事件の死刑囚平沢定通は・・・」とあるので、やっと三井銀行のことであるのかとナットクした次第である。

その三井銀行も、合併して太陽神戸三井銀行になり、平成4年4月にはさらにさくら銀行になり、「帝国銀行」とその「事件」も今では遠い過去のものになってしまった。

はたして、平沢元死刑囚は真犯人だったのか、それとも冤罪（無実の罪）だったのか・・・時の過ぎ行くままに被告の自然死で幕を引くという、いかにも日本的なフアジーな終り方で、真相は依然として藪の中にある。



逮捕のきっかけは

モニター写真

日本の第1号

この後、イッキに普及。今はご存じ

コンピューター

合成

もうマス・コミもあらためて取り上げることもなければ、「帝国銀行（現在のさくら銀行）事件の平沢定通は・・・」などと書かれることもなくなるだろう。

というわけで、帝国銀行→三井銀行→太陽神戸三井銀行を経て、さくら銀行に落ち着いて喜んでいる古〜い関係者は結構多いのではないか。

忘却とは忘れ去ることなりってか。

4位にはこれまたおなじみの贈収賄事件、**昭和電工**疑獄が顔を出す。

この6年後の、ワシら団塊の世代がピカピ

カの一年生に進学した29年には犬養法務大臣の指揮権発動でユーメーな造船疑獄が表面化し、その後も41年「黒い霧」51年「ロッキード」63年「リクルート」ととどまるところを知らない。

さらには共和だ佐川だゼネコンだと、元号が平成に変わってからも疑惑・疑獄・不正・汚職のタネは尽きないようである。

こんな事件の直後に国政選挙が行われたりすると、その度に自民党は律義に議席を減らし、時には過半数を割ってくれるのではあるが、ホトボリがさめるといつの間にか不死鳥のごとくよみがえってしまう。

野党の議員サンたちが事件にチラホラ顔を出すのが恒例となり、その一方でどちらもなれてきたのか、たとえば損失補てんや不正融資など一連の金融不祥事には国会議員の皆さんの名前があまり表に出ないようになった。

野党は野党で、自分たちの支持母体である組合などが損失補てんを受けていたこともあってか、この件ではあまり目クジラを立てなかったし、時の大蔵大臣橋本龍太郎サンが渋い顔とへの字の口でナレアイのお説教と中途半端な処分をして「これにてエ、一件落着ーッ！」させてしまった。

こんな時こそ「政治家の名前を公表せよ！補てん部分は課税して福祉事業に回せ！今こそ政治改革を！」と野党の皆さんが迫れば面白かったのに、それからすぐに共和や佐川のカゲにかくれてしまった。

☆

・・・ここまでお読みになって「なんか変だナ？」と思われた方が多いでしょうネ。

実はこれ、平成4年に書いたヤツで、翌年には細川政権誕生、羽田サンのワンポイントの後になんの間違いか村山サンが総理大臣になり、その後橋本サンに禅譲と、現実の流れにはとてもついてゆけませんが、めげずに昭和電工疑獄に話を戻しましょう。

昭和電工は大手の肥料会社で、れっきとした東証（東京証券取引所）一部上場の一流企業である。

この会社が復活金融金庫の特別融資を受けたくて、政官界に運動費（早い話がワイロ）を景気良くバラまいたのだ。

復興金融金庫（略して復金^{ふっきん}）は、21年にGHQ（General Head Quarterの略。連合軍総司令部）のお許しをいただいて日本興業銀行に設置された特殊金融機関で、目的はその名の通り戦後復興、特別低利の融資は重要産業の設備運転資金が対象だった。

今ならさしずめ不況対策融資といったところだろうが、その融資先の決定をするのが大蔵省^{やくにん}関係の官僚で、その官僚を動かすのが国会議員のセンセー方、というわけで、まずはここらへんにマトをしぼる。

昭和電工が肥料製造の会社だったこともあって農林省からは重政^{しげまさ}誠行元事務次官が、金融関係の元締めともいうべき大蔵省^{たけお}からは主計局長の福田赳夫^{のち}サン（後の総理大臣。昭和51～53年）と日本興業銀行総裁の二宮善基サンが官界を代表して収賄容疑で逮捕された。

小役人どもに負けてなるかとばかり、政界は与党から大野伴睦^{ばんぼく}サン、野党も義理堅く西尾末広^{すえひろ}サン（民社党の創設者で初代委員長として有名だが、この頃は社会党の中央執行委員。チョット前までは片山内閣の副首相だった）らの懲りない面々を塀の中に送り出す。

このあたりが、良くいえば運動費悪くいえばワイロを袖の下で受け取る立場の収賄側^{ワル}、ま、早い話が「越後屋、おヌシも悪だのう」の悪代官である。

「なにをおっしゃいます、そういうお代官

様こそ、ヘッヘッヘ…」と言いつつ、顔を見合わせて大笑いする越後屋サンが昭和電工社長の日野原節三サンで、こちらが贈賄側の代表選手として塀の中に入る。

許認可の権限は官僚が一手に握り、その官僚は大臣（政治家）が仕切る。

企業はその許認可が欲しいからこそ、大臣に官僚に政党にと、羽賀のケンちゃんじゃないが誠意（!）のあるところを見せなくてはならない。（このパターンは今も変わらない）



アテにならない 真心よりも



みんなニコニコ まず現金

おだいかんさまとえちごや

てなもんで贈収賄行為がなんの抵抗もなく自然発生する。

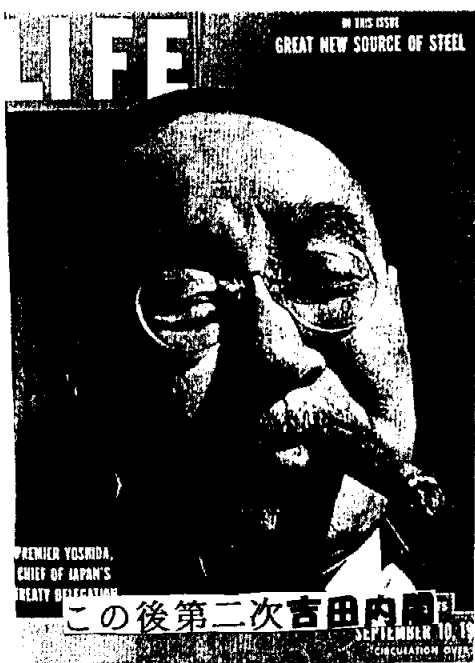
こっちがやらなきゃどこかがやる、どうせなら先手必勝・早い者勝ち・・・ここらへんの構造は今も昔も東も西も、資本主義体制であろうが、今でも細々と営業している社会主義体制であろうがかわりはなく、表面に出るか出ないか、程度がヒドいかヒドすぎるか、バレるかバレないか、バレたらトボけきれる

かきれないかの違いだけで、いずれにしても権力は腐敗する、絶対権力は絶対腐敗する運命と真理からは逃れられない。

復興金融なんていうところがいかにも戦後っぽいで、今なら表にすら出ない、そんなセコい贈収賄事件である。

住専だって、国民の税金を投入しようとするからモメているだけで、本来は不正融資^{ひやくしょう}と乱脈経営、農協の身勝手が問題なのだ。

政治家だってもっと名前が出ていいはずなのに、山口敏夫あたりのチンピラ^{チンネン}を逮捕しただけ、構造的な問題はワシらが生まれたこの頃と、いや、黄門ちゃまの頃と一向に変わっていない。



さて、世界の動きはどうだったか。

インドでは**マハトマ・ガンジー**さんが暗殺された。

ワシら日本人にはなんとも理解ができない宗教上の理由らしく、暗殺者は手を合わせて（敬意の意思表示）からピストルの引き金をひき、殺されたガンジーさんも相手の額に手をあてた（われ汝を許す、の意思表示）というからこれほど礼儀正しい暗殺はない。



そのガンジーさん、1870年というから明治3年生まれ、ネール元首相と並ぶインド独立の英雄だが、戦闘的な民族主義者のネールさんとちがって、徹底した非暴力・無抵抗主義者であった。

投獄されるのはしょっちゅうで、死ぬ一歩手前の断食をしたかと思えば、国の塩専売政策に反対して海水から塩を作ったりと、その闘いぶりはどこかの元革新政党の口先だけの非武装中立とちがって、ハンパじゃない。

ネールさんが独立インドの初代首相に就任し、長い間世界の表舞台で大活躍したのに比べ、独立後すぐに暗殺されてしまったガンジーさん、ソんな役回りを一手に引き受けたといえなくもないが、それが逆にヒーロー性とカリスマ性を高める結果になっているのも事実で、後にその名もズバリ「ガンジー」のタイトルで映画化され、みごとアカデミー賞に輝いている。

そういえばインク消しのメーカーにガンジーというのがあるが、ネーミングになんか由来でもあるのでしょーか。

ワシらが生まれたこの年に、**イスラエル**も誕生した。

その後、中東戦争が何回か繰り返され、記憶にも新しい平成2年の湾岸戦争へと引き継がれていくのだが、このあたりの複雑な中東の事情はどうも日本人にはわかりづらい。

ワシはイスラエル国家誕生の過程は「栄光への脱出」（昭和36年）から、アラブ諸国の複雑な事情は「アラビアのロレンス」（昭和38年。アカデミー作品賞他。ワシのお気に入り）からなんとか理解したような気になっているが、まあ、あやしいものである。



占領軍の本国アメリカでは大統領選挙が行われ、民主党の**トルーマン**さんが共和党のデューイ候補を予想以上の大接戦の末になんとか勝って、辛くも再選された。

現職の大統領としての記憶はその4年後のアイゼンハワー（1952年当選。共和党）あたりからだが、このトルーマンという名前だけはなぜか知ってはいた。

☆おサルのおケツはマッカーサー

☆自分でパンツをトルーマン

☆成せば成るナセルはアラブの大統領

☆キスしそう（岸首相）

有名人の名前はおおむねこうやって覚えたものであるが、今ならさしずめ・・・



☆おセチ料理に

クリントン

☆サッチャーはね

☆危なっかしくて

ミッテラン

といったところで



次号は当時はやった歌謡曲の特集です。乞うご期待